



【星城大学剣道部朝稽古】

特集

スポーツの星城

——星城大学編——

剣士のあこがれ 東良美 範士八段 星城大学剣道部師範に
躍動する運動部 ～高みをめざして～
選手に直撃インタビュー!

学園アラカルト／平成29年度学園財務情報

星城懇話会 総会開催／第1回公開講演会 講師 童門冬二氏

剣士のあこがれ

東良美範士八段 星城大学剣道部師範に

平成30年4月、星城大学剣道部は、国体や全日本選抜剣道八段優勝大会優勝など、華々しい戦績を誇る東良美範士八段が師範に就任いたしました。東範士は、今年の3月まで愛知県警察術科室長として、警察官を指導していました。

八段は剣道の最高段位で、範士は武道における称号の最高位です。東範士は、八段取得者の中でも選り抜きの者の中で争われる大会に出場し、その頂点に輝いたわけですから、まさに剣道を志す剣士にとっては、あこがれの存在です。

剣道専門誌として多くの剣道愛好家が愛読する月刊「剣道時代」平成25年11月号は、「東良美の剣道授業」としてDVD付きで30ページにもわたって、1時限目「攻めの基本」から6時限目「素振り・空間打突」までの特集を組んでいます。

星城大学剣道部は、DVDや本ではなく、東範士に直接指導していただけるわけですから、剣道を志す剣士のあこがれ・夢が実現できる運動部・大学です。



【剣道部朝稽古】

朝の7時半、星城大学の体育館では、剣道部の部員の気迫にあふれた掛け声とぶつかり合う音が響きわたります。剣道部の部員は、現在7人ですが、経営学部1年の鈴木邑慧選手(星城高校出身)が全国大会(インカレ)個人戦に出場するなど、すでに連日の朝稽古の効果が出ています。

東範士の座右の銘は「謝四恩」です。謝四恩とは、親に感謝、国に感謝、師に感謝、友に感謝。色々な人に助けられていることを思い、感謝の気持ちを忘れずに今を生きる、という意味だそうです。その道を極めた人はあくまでも静かで謙虚です。

東範士に指導されるこれからの剣道部の活躍が期待されます。



【範士拜受記念面手ぬぐい】



東良美(ひがし よしみ)
範士八段
得意技:面 構え:中段
剣歴:
●全日本選抜剣道八段優勝大会
9回出場 第9回大会優勝
2位3位各1回
●選手権大会4回出場
●東西対抗大会7回出場
●都道府県対抗大会5回出場
2位1回
●国体13回出場 優勝1回
●全国警察官大会
団体一部2位
●全日本選抜七段大会10回出場
3位2回

剣道部・女子バレーボール部・柔道部・
女子ソフトボール部・弓道部・硬式野球部・
女子ソフトテニス部・男子ソフトテニス部



躍動する運動部 ~高みをめざして~

選手に直撃インタビュー! Part.1

「目標!一部リーグ昇格」 剣道部

キャプテン
佐源太 勝悟さん(経営学部 3年)

剣道の魅力は、「生涯成長できるスポーツである」という点です。多くのスポーツは、年齢の壁ができてしまいがちですが、剣道では、技術を積み重ねるほど強くなることができます。年齢に関わらず、自分自身をどこまでも成長させてくれることが大きな魅力です。

剣道部キャプテンとしては、部員一人一人がしっかりと考え、自主的に活動できるような雰囲気作りを心がけています。大学生となった今、自主的に、自分たちで考えながら取り組むことが、自分たちを成長させてくれると考えています。

剣道部としては、卒業までに一部リーグに必ず上がるという目標を持って活動しています。東先生をはじめとして、先生方に多くの支援をいただいております。一丸となって戦っている実感があります。自分たちだけではなく、先生方の期待に応えるためにも、なんとしてでも一部リーグに上がり、星城大学剣道部を成長させたいと思っています。

そして、星城大学の剣道部にしかできないことをしていきたいと思っています。少数精鋭の強みを生かして、剣道教室の開講など、地域貢献にも関わっていかれたらと思っています。また、キャプテンとして様々な経験をしながら、感謝の念を忘れずに、より一層、励んでいきたいと思っています。



「一致団結」 女子バレーボール部

キャプテン
大塚 和さん(経営学部 4年)



バレーボールの魅力は、「協力のスポーツである」という点です。他のスポーツでは、一人の優秀な選手がいることで勝利できたりしますが、バレーボールはみんなであつないだボールで点数を取らなければいけません。バレーボールは、メンバーとしっかりと連携を取りながら点数を取っていくのが、非常に魅力的です。

キャプテンとしては、部全体のコミュニケーションがより良く行われるよう心がけています。部員の相談や悩みを聞いて、アドバイスしたりしていますが、部員の主体性がブレないよう、考えながらアドバイスしています。

今までで一番印象に残ったことは、リーグ戦での二部昇格をかけた入れ替え戦での勝利です。キャプテンとして、チームワークを強化することを目標に取り組んできましたが、この入れ替え戦では、チームが一丸となって勝利を掴み取ることができました。選手一人一人がどうすれば点を取れるのかを考え、部全体がチームの勝利のために一致団結していました。目指していたチーム像に近づけているという実感が湧き、とても嬉しかったです。



「毅然とした姿勢」 柔道部

キャプテン
猪飼 真利さん(経営学部 3年)

小学校3年生の時に、「警察官になりたい!」と思い柔道を始めました。警察官になるためには、柔道が必修科目で、夢を叶えたかったからです。柔道は、完全な個人スポーツで、自分が負けた時には、自分自身をしっかりと見つめ直すことができることが大きな魅力です。また、柔道では、礼儀・礼節・上下関係をしっかりと学ぶことができ、大学生になった今でも、柔道から学んだことが生きています。



部員は明るい性格の学生が多く、みんな自覚をもってメリハリをつけることができる者ばかりです。部内の雰囲気もとても良く、プライベートでも付き合いがあり、柔道部は部員にとっての「居場所」になっています。

キャプテンとして心がけていることは、「弱い部分は見せない」です。辛いことがあった時、弱さを見せると、周りは頼りづらくなると思います。辛いことは、先輩や先生に相談し、周りには毅然とした姿勢で引っ張っていくことを心がけています。部活動だけではなく、社会からでも、周りを引っ張っていけるような存在になりたいと思っています。

「日々常笑」 女子ソフトボール部

キャプテン 坂本 真由さん(経営学部 4年)



大学進学を機に、他のスポーツをやってみようとも考えましたが、監督の神谷先生から、一から一緒にチームを創ってほしいと誘われ、新しい視点からソフトボールに携われると思い入部しました。



ソフトボールは団体スポーツですが、一試合の中で個人が輝ける機会が必ず来ます。団体スポーツの中で、「個人戦」が入ってくるのは数少なく、皆が個人戦で結果を出して団体スポーツとして勝利するという奥深さが魅力です。

社会に出ると、様々な人と関わることになると思います。その中で、自分自身がソフトボールを通して得た様々な能力で、自分にしかできないことをしていきたいと思っています。自分と関わったことで、その人の人生が豊かになったり、周りを良い方向に導いていける人間になりたいです。

そのためにも、グローブに、「日々常笑」という刺繍を入れ、胸に刻んでいます。常に明るく笑い、上に昇っていくという意味を込めています。常に笑顔で、周りを盛り上げながら練習に取り組むことが、自分自身をより成長させるものだと思っていて、これからは「日々常笑」を心がけていきます。



「正射必中」 弓道部

副キャプテン 東 大祐さん(経営学部 1年)



弓道を始めたのは、高校1年生からです。最初はハードな基礎練習を繰り返していましたが、部活を続けていくうちに、弓道競技の奥深さを知りました。

弓道の一番の魅力は「正解がない」ことです。他の競技では、理想のフォーム等があるかと思いますが、弓道では、自分の矢を射る射型を自分自身で模索していきます。自分にとって理想の射型を身に付け、自分との戦いを通じて「心・技・体」を身に付けることができるのが魅力です。

弓道部としては、リーグ戦を勝ち抜き、絶対に二部リーグまで上がりたいと思っています。そのため、「あてる射型」ではなく、「あたる射型」を意識しなければなりません。自分を見つめ直し、自分にとっての理想の射型を身に付けていくことが必要だと思っています。

そのためにも「正射必中」を心がけて練習に取り組んでいます。自分にとって正しい射型で放てば、矢は必ず中たります。弓道はあてることだけを

目的とするのではなく、あたる射型を探し、自分を見つめることが大きな目的です。矢を正しい目標に射るためには、自分との対話が必要不可欠で、忘れないようにしています。

星城大学弓道部の部員たちと出会えてよかったと思っています。まだ1年生なので、これからこの仲間たちと多く思い出を創っていかれたらと思っています。



「苦の中に光あり」 硬式野球部

キャプテン 安井 和真さん(経営学部 4年)

現在の目標は、一部リーグ昇格です。目標に向けて野球部全体で練習に取り組んでいます。プレーをする上でのコミュニケーションを重視し、試合でもそれが出せるようにするため、普段から積極的に声掛けを行うようにしています。

野球の魅力は、勝敗がはっきりと決まるということです。そういった環境下でプレーすることは、自分自身の成長にも繋がると思っています。また、野球を通じて、技術だけではなく、人としての礼儀など、人間形成にも良い影響を与えていると考えています。

高校時代に先生から教えていただいた「苦の中に光あり」という言葉は今でも心がけています。苦しいことから逃げるのではなく、向き合い、乗り越えていくことで光が見えてくるという意味で、苦しいときは、この言葉を思い出して乗り越えてきました。今後も、辛いこと、苦しいことから逃げずに立ち向かっていきたいと思っています。

そして、自分が野球を通じて学んだことを、今度は教員として高校生たちに伝えていきたいと思っています。野球の技術面もそうですが、何よりも、野球を通じて培った人間としての礼節を伝えていければと思っています。

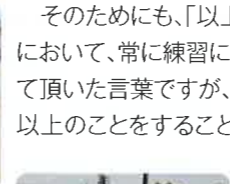


「以上なほど異常なことをする」 女子ソフトテニス部

副キャプテン 岸本 恵利佳さん(経営学部 2年)

ソフトテニスは、基本的にダブルスで試合を行います。前衛・後衛それぞれに役割があり、協力しながらポイントを取らなければいけません。一人がうまくても、うまく連携が取れなければ試合には勝てませんし、それぞれが役割を果たしながら、息を合わせて試合を運ぶ奥深さが魅力です。

目標は、全日本大学ソフトテニス王座決定戦への出場です。そのためにも、今よりもっと練習の質をあげなければいけないと思っています。周りから言われるからやるのではなく、自分から考えて切磋琢磨できるような環境づくりをしていきたいと思っています。



そのためにも、「以上なほど異常なことをする」という言葉を胸において、常に練習に取り組んでいます。高校時代の先生に教えて頂いた言葉ですが、今までと同じことだけをするのではなく、今以上のことをすることで変化が良い方向に向かうという意味です。ミスをした際に、何も考えなかったら変化は起きません。自分で考えて改善していかなければ変化は起こらないので、これから何をやるにあたって、この言葉は忘れないように取り組んでいます。



「みんなで繋いで勝ち取った」 男子ソフトテニス部

副キャプテン 片山 裕利さん(経営学部 4年)

ソフトテニス部では、多い時には月に一度のペースで大会に参加し、大会の優勝を目指して練習に取り組んでいます。今回は、東海ブロックで優勝することができ、全日本大学ソフトテニス王座決定戦にも参加しました。自分はダブルスをメインにプレーしていますが、ポイントを取るためには、パートナーとの連携が必要不可欠です。相手の分析を行いながら、試合を組み立てていき、二人で試合に勝った時に、達成感を感じます。

団体戦で優勝したことは、自分の中でもとても印象に残っています。団体戦では、重要なポジションを任せられ、自分自身も絶対に勝つぞという強い想いで試合に臨みましたが、負けてしまいました。しかし、周りの仲間達が挽回してくれて、優勝することができました。周りの仲間達に助けられ、みんなで繋いで優勝を勝ち取ることができ、とても印象に残っています。

ソフトテニス部の副キャプテンとして学んだことを生かして、これからも頑張っていきます!



「あいち女性の活躍プロモーションリーダー」の委嘱

星城大学



【2列目左から4人目 小川教授】

星城大学は、平成28年3月、県内の教育機関では初めて、「あいち女性輝きカンパニー」として、愛知県知事の認証を受けています。

「あいち女性輝きカンパニー」は、女性の活躍促進に向けて積極的に取組を推進する団体等を県が認証し、女性の活躍の一層の促進を図ろうとする制度です。

7月5日(木)、星城大学は、知事から、「あいち女性輝きカンパニー」の中で、女性の活躍促進の取組に協力する団体として、「あいち女性の活躍プロモーションリーダー」を委嘱されました。プロモーションリーダーの委嘱式は、大村知事、宮本副知事出席の下、愛知県庁本庁舎正庁において行われ、本学からは、小川純子経営学部教授が出席いたしました。

プロモーションリーダーのロゴマークは、「あいち女性輝きカンパニー」のロゴを発展させ、クラウン(王冠)を被せて、プロモーションリーダーとしての「輝き」と「強さ」を表現したものです。星城大学は、今後は、このロゴマークを使用して、プロモーションリーダーとして活動してまいります。



【ロゴマーク】

Volleyball Academy ~ Kids Stars ~ 結成から1年

星城高等学校



【石川祐希選手と】

Volleyball Academy ~ Kids Stars ~ は、昨年、星城高校創立55周年を記念して、豊明市と名古屋石田学園との包括協定のもと結成されました。

Kids Stars は、バレーボールを通して健全な心身を育成すること、良好な親子関係を築くこと、感謝のできる実践力に富んだ逞しい人間を育成することを目的としています。

本校を卒業した石川祐希選手(プロバレーボール選手)や深津英臣選手(パナソニック所属)など多くのVリーグ選手によるサポートを受け、活動を始めて1年が経ちました。現在は、水曜日と土曜日の週2回、本校の明德館で活動しています。

近隣の30名を超える小学生を中心に、中学生や社会人といったバレーボールを楽しみたい方々が集まっています。

H29.8.5 石川祐希(全日本代表・プロバレーボール選手)
バレーボール交流会

H30.2.17 Kids Stars 結団式及び辻健志(火の鳥 NIPPON コーチ)
バレーボール体験会

H30.5.23 深津英臣(全日本代表・パナソニック所属)
渡辺奏吾(パナソニック所属)
バレーボール交流会

現在は、夏休みの練習試合や宿泊合宿に向けて活動しています。



【上:結団式記念写真(辻コーチと)、下:深津選手、渡辺選手と】

豊明英検講座

星城中学校



【筆記試験対策講座】

星城中学校では、豊明市と締結した包括協定に基づいて、英検対策講座を開催しています。この講座は豊明市在住の小学生・中学生を対象として、平成26年度より実施しており、今年度で5年目を迎えました。5級・4級・3級の筆記試験対策講座と3級の面接試験対策講座を合わせて年6回実施しています。

普段は接することのない児童・生徒さんたちですが、よく参加してくれるみなさんとは顔なじみになりました。その子たちの受講している級が前回より上がっていると、私たちが嬉しく思います。これからも、本校の英語教育の魅力を変えながら地元豊明市のために貢献出来たらと考えています。



【面接試験対策講座】

七夕会

星の城幼稚園



【短冊をしっかりと結び付けて】

6月26日(火)から28日(木)、保育参観「七夕会」を行いました。

親子で一緒に吹流しなどの七夕飾りを作り、短冊にそれぞれの願いを書き、笹の葉に飾りつけます。

子どもたちの短冊には、「自転車に乗れますように」、「逆上がりができるように」、「サッカー選手になれるように」、「ウルトラマンになりたい」など、様々な願い事が書かれています。

そして、多くの保護者の方の短冊には、「家族みんなが元気に過ごせますように」と書かれていました。

親子みんなで七夕の歌を歌い、織姫、彦星の話を聞きました。

みんなの願いが叶いますように！



【左:願い事、叶うといいね】



【右:短冊をどこにつけようか】

病院見学バスツアー

星城大学リハビリテーション学院



【病院の先生からの説明を受ける参加者たち】

6月16日(土)に病院見学バスツアーを開催しました。

年に3回、オープンキャンパスの一環として、岩倉市にある病院へお伺いし、リハビリテーション室の見学をさせていただきます。

この病院見学は、実際にけがや病気、あるいは障害を持った患者様を治療している理学療法士を間近で見学できるとも貴重な機会であり、毎年多くの方に参加いただいています。

病院の先生からは、理学療法士の役割・仕事のやりがい・国家資格所有者の社会的責任・多職種との違いなど、幅広く説明をしていただき、参加者も真剣なまなざしで先生の話聞いており、今回の病院見学を通して、さらに「理学療法士」への興味を深めていただけたことと思います。



【施設内の見学】

平成29年度学園財務情報(決算の概要)

資金収支計算書

収入の部			支出の部		
科目	決算	比率	科目	決算	比率
学生生徒納付金収入	2,091,964	24.0%	人件費支出	2,183,615	25.1%
補助金収入	797,861	9.2%	教育研究経費支出	626,042	7.2%
前受金収入	534,196	6.1%	管理経費支出	241,348	2.8%
付随事業・収益事業収入	26,554	0.3%	施設関係支出	97,252	1.1%
手数料収入	117,372	1.4%	設備関係支出	59,834	0.7%
寄付金収入	40,422	0.5%	その他の支出	5,002,628	57.5%
その他の収入	4,498,758	51.7%			
前年度繰越支払資金	594,388	6.8%	翌年度繰越支払資金	490,796	5.6%
収入の部合計	8,701,515	100.0%	支出の部合計	8,701,515	100.0%

事業活動収支計算書

収入の部			支出の部		
科目	決算	比率	科目	決算	比率
学生生徒納付金	2,091,964	62.9%	人件費	2,214,038	66.5%
経常費等補助金	785,156	23.6%	教育研究経費	857,002	25.7%
付随事業・収益事業収入	26,554	0.8%	管理経費	256,426	7.7%
手数料	117,372	3.5%	その他	3,341	0.1%
寄付金	55,651	1.7%	事業活動支出の部合計	3,330,807	100.0%
その他	249,003	7.5%	基本金組入前当年度収支差額	△ 5,107	—
事業活動収入の部合計	3,325,700	100.0%	基本金組入額合計	△ 283,532	—
			当年度収支差額	△ 288,639	—

貸借対照表

資産の部			負債の部、純資産の部		
科目	本年度末	比率	科目	本年度末	比率
固定資産	19,414,196	96.7%	固定負債	1,340,208	6.7%
流動資産	665,929	3.3%	流動負債	942,132	4.7%
			基本金	17,697,495	88.1%
			繰越収支差額	100,290	0.5%
資産の部合計	20,080,125	100.0%	負債及び純資産の部合計	20,080,125	100.0%

●資金収支計算書は、その年度の学園の諸活動に対応する収入及び支出のすべて、並びにその年度における支払資金の収入及び支出の状況を明らかにするためのものです。そのため事業活動収支計算書とは異なり、次年度の収入となる前受金収入や、施設設備に関する支出及び借入金返済支出なども計上されています。

●事業活動収支計算書は、収支の均衡の状態とその内容を明らかにすることによって、学園の経営状態を把握するためのものです。そのため、資産・負債の振替等に伴う収支などは除かれ、また退職給与引当繰入額、減価償却額、資産処分差額、現物給与等、資金の収支を伴わない金額が計算されたうえで年間収支をとらえています。

●貸借対照表は、平成30年3月31日現在の財務状況を示すものです。

星城懇話会

総会開催& 名古屋ボストン美術館鑑賞



6月20日(水)、名古屋都市センター特別会議室において、「星城懇話会総会」が開催されました。各審議事項が承認され、総会は終了いたしました。

続いて、名古屋ボストン美術館職員から、美術館の展示の紹介をしていただきました。



【美術館職員から展示の説明】

名古屋ボストン美術館は、今年の10月に閉館することが決まっています。今回の展示では、東西の名品が集まった「ボストン美術館の至宝展」が開催されていました。美術館職員から、展示品の発掘にまつわる話などもあり、より一層鑑賞を楽しむことができました。珍しい古代エジプト美術から日本美術、現代美術など幅広く豊富に展示されており、会員のだれもがその素晴らしさに魅了されました。

その後、ホテルレストランにて呈茶をお楽しみいただきました。「ボストン美術館の至宝展」は7月1日に終了し、7月24日からは、名古屋ボストン美術館最終展「ハピネス～明日の幸せを求めて」が始まっています。閉館前に足を運んでみてはいかがでしょうか。



星城大学 第1回公開講演会



講師
童門 冬二氏

「21世紀型『ゆたかな社会』を求めてⅣ」、2018年度第1回公開講演会が、6月16日(土)、作家で、東海市

「平洲記念館」名誉館長でもある童門冬二氏を講師としてお招きし、今回は東海市・東海市教育委員会と共催のかたちで、開催されました。

演題は「西郷隆盛と細井平洲」で、東海市出身の江戸時代の儒学者、細井平洲研究の第1人者である童門先生の講演ということもあり、東海市、知多市、名古屋市を中心に定員を大きく上回る多数の方に参加をいただきました。

童門先生は90歳の高齢にも拘わらず、講演中、一度も着座されることなく、今話題の西郷隆盛との関わりを交えながらのユーモア溢れる親しみやすい内容でした。会場は終始穏やかな雰囲気の中、時々笑みがこぼれる素晴らしい講演となりました。

東海市出身の賢人に関する講演会が、東海市と東海市に在る星城大学とが共同で開催できたことは、地域に根ざし、地域に貢献できる大学を目指す本学にとって、大変意義のあることで、関係者の皆様に感謝いたします。



【満員の講演会場】



学校法人
名古屋石田学園

〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目14番32号
Tel : 052-221-8921
Fax : 052-689-6003
URL: <http://www.n-ishida.ac.jp/>